

国際交流委員会

Millennium Development Goals(以下 MDGs)の保健関連目標達成のために必要である効率的な医療を提供するためには、様々な医療従事者との連携が極めて有効である。病院薬剤師は、チーム医療において、医療の安全性、有効性及び効率性を保証する役割を有し、医薬品の調達、保管、在庫、供給及び適切な使用を行う役割を担っている。国際協力機構（JICA）病院薬学コースは、参加者に日本における病院の医薬品マネジメントの理解および災害支援の経験の共有を通じて病院薬剤師に必要な技術・知識を習得する機会を提供するものです。

また、JICA 病院薬学コースは、JICA の委託を受けて 1994 年度に、国際医療技術財団により創設され、1994 年度から 2012 年度までに受け入れた研修員は 55 カ国 159 名である。本会は、国際医療技術財団に協力する形で国際交流委員会が中心となり、講義研修の内容、講師及び病院実習先の医療機関の選定とともに、プログラムの作成など同コースの運営に携わってきた。

2013 年 JICA 病院薬学コースのプログラムは、5 カ国（7 名）の研修員を受け入れて 2013 年 10 月 2 日（水）から 2013 年 11 月 7 日（木）の約 1 ヶ月の期間で開始した。その構成は、イラク（2 名）、パラオ、パプアニューギニア（2 名）、ミャンマー、ウガンダの 5 カ国から 7 名の研修員となった。

宗教は、イスラム教、キリスト教であり、食事の問題等についても配慮が必要となる。対象となる各研修員は個々の所属する病院において、チーム医療における病院薬剤師による医薬品マネジメント（①病院薬剤部門における医薬品の適切な調達・保管・在庫・供給、チーム医療、病棟・外来および災害対策での適切な薬剤師業務等。②医薬品の適正使用のための調剤。③適切な医薬品情報の収集・評価・提供。）の改善に関する単元目標を達成する。そして、国又は地域が必要とする医療において中心的な役割を担い、高次の医療にも対応しうる基幹病院の薬剤師とした。



研修初日には各研修員に対し、参加された研修員の年齢に幅があるものの、同じ薬剤師としてコミュニケーションを図り、協力し、実りある研修にして欲しいとの思いを伝えた。また、各自の目的を明確にし、この1ヵ月という短い期間にできる限り目的達成に近づくように楽しくがんばる旨を伝えた。

本病院薬学コースは、講義研修と医療現場での研修（病院）の二つの単元に分けて実施した。これは厚生労働省等からの要望もあり、JICA 病院薬学の理念に基づき、薬剤師の基本業務といえる「調剤」と「医薬品管理」の二つを主たるテーマとし、それぞれについて学ぶこととしているためである。さらに、昨年度からは災害時における薬剤師の活動等、いま地球が激しい動きをみせている中での薬剤師の役割などについて学ぶ講義も入れることとした。

各単元の目標については、(1) 病院薬剤師に必要な業務を理解し、病院及び薬剤部のシステム化に関する技術と知識を身に付け、チーム医療、病棟・外来および災害対策における薬剤師の役割について説明することができる。(2) 医薬品の調達・保管・在庫・供給の技術と知識を身に付け、説明することができる。(3) 医薬品の適正使用のための調剤の技術と知識を身に付け、説明することができる。(4) 医薬品情報の適切な収集・評価・提供についての技術と知識を身に付け、説明することができることとした。



今回参加された研修員は、ネットワークを活用し、これにはヒトとヒトとのヒューマン・ネットワーク、そして ICT を用いたネットワークがあるが、両方のネットワークを利用して、今後も情報交換等を図り、研修された研修員の自国自施設での活躍、JICA の病院薬学コースの質向上に協力して頂くことをお願いした。本 JICA 病院薬学コースを担当して頂いている研修担当の高木真理子氏からは、研修員からよく言われることとして、『5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）等に関心のあること。この 5S については病院での実習時に、その実践が見学できること。また、研修期間中には JICA 作成の「日本の保健医療経験（英語版）」の DVD（“On the Path to Good Health（35 分）”と“Protectors of Life”（34 分））等も上映され、研修員が非常に興味を抱いたこと。さらに「日本の経験、特に 20～30 年間の歩みが知りたい。そこから自国に適用できるヒントを得たい。」という気持ちが強い』ということであった。病院薬剤師業務の変遷等、我が国における病院薬剤師がどのような背景の中で、どのようにがんばってきたかを講義する必要をより強く感じた。我々への課題を提案してくれた今年度の JICA 病院薬学コース研修員の健康はもちろんであるが、自国等での活躍を期待する。

平成25年度JICA病院薬学コース

研修員:5カ国7名。 イラク(2名)、パラオ、パプアニューギニア(2名)、ウガンダ、ミャンマー

10/2	水	来日	
10/3	木	9:00-12:00 抗体検査	JICAプログラムオリエンテーション
10/4	金	JICAジェネラルオリエンテーション	
10/5	土	休日	
10/6	日	休日	
10/7	月	10:00-12:00 JIMTEFオリエンテーション 公益財団法人 国際医療技術財団 代表理事 小西 恵一郎	13:00-15:00 研修ガイダンス・ジョブレポートに基づく意見交換会 一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事・国際交流委員会委員長 折井孝男
10/8	火	10:00-12:30 日本の病院薬剤師業務の概要 講師:一般社団法人日本病院薬剤師会 事務局長 安岡 俊明	13:30-16:00 医薬品の管理(その1) 流通管理 講師:湘南鎌倉総合病院 薬剤部長 仲鉢 英夫
10/9	水	10:00-12:30 調剤(その1) 内服薬 講師:国立病院機構 東京医療センター 主任薬剤師 西村 富啓	13:30-16:00 医薬品の管理(その1) 在庫(供給)の管理 講師:国立成育医療研究センター 医薬品情報管理室長 相良 真一
10/10	木	10:00-12:30 調剤(その2) 外用薬 講師:聖路加国際病院 副薬剤部長 川名 賢一郎	13:30-16:00 予防接種/課題研修
10/11	金	10:00-12:30 病棟における薬剤師の業務 講師:済生会栗橋病院 薬剤科長 菅我部 直美	13:30-16:00 調剤(その3) 注射剤 講師:広島県厚生連 広島総合病院 薬剤部長 大田 博子
10/12	土	休日	
10/13	日	休日	
10/14	月	休日	
10/15	火	10:00-12:30 調剤(その4) 医薬品の投与方法 講師:横浜市立みなと赤十字病院 副薬剤部長 井口 恵美子	13:30-16:00 医薬品の管理(その3) 麻薬・向精神薬の管理 独立行政法人 国立国際医療研究センター病院 薬剤部長 和泉 啓司郎
10/16	水	10:00-12:30 災害時における薬剤師の役割 講師:一般社団法人 日本病院薬剤師会 常務理事 佐藤 博	13:30-15:30 医療における臨床心理士の役割 講師:東京大学学生相談ネットワーク本部 助教 藤岡 勲
10/17	木	10:00-12:30 医薬品の適正使用と薬剤師 講師:東京大学医学部附属病院 主任薬剤師 渡邊 文	13:30-16:00 医薬品の管理(その4) 病棟における医薬品管理 講師:東京大学医学部附属病院 薬剤師 黒田 誠一郎
10/18	金	10:00-12:30 がん薬物療法 講師:国立がん研究センター東病院 主任薬剤師 松井 礼子	13:30-16:00 病院における感染対策 講師:千葉大学医学部附属病院 薬剤師 三浦 剛
10/19	土	休日	
10/20	日	休日	
10/21	月	10:00-16:00 医療機関における実習1-1 国立国際医療研究センター病院 薬剤部長 和泉 啓司郎 研修員A(イラク、パラオ、パプアニューギニア、ミャンマー)	10:00-16:00 医療機関における実習1-2 横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部長 高橋 弘充 研修員B(イラク、パプアニューギニア、ウガンダ)
10/22	火		
10/23	水		
10/24	木		
10/25	金		
10/26	土	休日	
10/27	日	休日	
10/28	月	10:00-16:00 医療機関における実習2-1 東京通信病院 薬剤部長 山村 喜一 研修員A(イラク、パラオ、パプアニューギニア、ミャンマー)	10:00-16:00 医療機関における実習2-2 国立国際医療研究センター病院 薬剤部長 和泉 啓司郎 研修員B(イラク、パプアニューギニア、ウガンダ)
10/29	火		
10/30	水		
10/31	木		
11/1	金		
11/2	土	休日	
11/3	日	休日	
11/4	月	休日	
11/5	火	10:00-12:30 医薬品の情報 講師:一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事・国際交流委員会委員長 折井 孝男	13:30-16:00 個別オリエンテーション(その1) (研修の振り返り・個別評価) 一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事:国際交流委員会委員長 折井 孝男
11/6	水	9:30-11:30 個別オリエンテーション(その2) (研修の振り返り・個別評価) 一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事:国際交流委員会委員長 折井 孝男	11:30-12:30 評価会
11/7	木	帰国	